

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 1 月 13 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104898		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・高陽		
所在地	〒739-1732 広島県広島市安佐北区落合南七丁目10番20号 (電話) (082) 841-5670		
自己評価作成日	平成24年11月13日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3470104898-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成25年12月13日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で一日一日を穏やかに過ごしてもらえるように入居者一人ひとりの生活を大切にする。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は系列のグループホームと連携し、「ひなたぼっこ基本理念」を全職員で確認・共有しながら、「個別ケア」を実践している。ホームの特色は、①家庭的な雰囲気の中で利用者に「好きなことを好きな時にやって頂く」「普通のことを普通にやって頂く」支援を職員全員で理解・共有して取り組み、利用者一人ひとりのペースで過ごせるように配慮している。②利用者と職員と一緒に日々の中で笑いのある生活を心掛け、職員は常に優しさを持って接している。③人と人との関係を大切にしており、地域のボランティアやこのホームの退職者が定期的に来訪し、利用者の喜びや活きがいになっている。④地域行事に参加し、地域に溶け込む努力をし、祭りでは利用者と一緒に楽しむなど地域と良好な関係が作られている。以上4点が挙げられる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を掲げ、入居者の意向を聞き尊重しながら、その人らしい生活に近づけるように日々努力している。	毎月のミーティングや日々の申し送りで理念を確認・共有して実践に繋げている。利用者に負担をかけない・無理をさせない支援に職員は意識して取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議などでの情報交換しており、地域の祭りや行事の案内を受け参加している。日常的な交流は近くの畑に収穫の招きを受ける、避難訓練などへの参加など少しずつ取り組んでいる状況である。	利用者の外出時に地域の方と挨拶を交わしたり、近隣の方からのサヤエンドウ収穫に招かれ参加するなど、日常的に交流している。運営推進会議で町内会行事の情報を受け、とんどや秋祭りの神輿など地域行事に利用者職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議などを通じて、認知症は地域へわずかながら理解されてはいると思われるが、活かしているとまではいっていない状況である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	出席された民生委員、地域包括支援センター、市役所の方より、他事業者の状況や近隣の高齢者状況その他の意見・助言を伺い、サービス向上に活かしている。ご家族の参加もお願いしているが、諸事情によりなかなか参加はいただけていないが、地域の方には避難訓練に参加されたり、見学をされたりといった関心も寄せられている。	運営推進会議には、町内会代表や民生委員、地域包括支援センター職員などが参加し開催され、活発な意見交換がなされており、それらは運営に活かされている。地域行事の情報を得ることによって、利用者と職員が参加するようになった。	運営推進会議は、活発な意見交換の場となっているが、家族の参加がなく開催されている。今後は会議の議事録を家族に閲覧して頂くなど、会議の意義を知ってもらい、家族の参加を呼びかけて、より有意義な会議にして頂きたい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の時に入退居状況をお伝えし、介護の現状に照らしながら幅広い受入れを目指す取り組みをしている。	運営推進会議に区介護保険課長の出席もあり、日頃から事業所の実績を報告したり、利用者の入居等の対応について相談するなど協力関係が出来ている。また、地域包括支援センター職員に助言頂き、地域住民や家族を対象に「認知症サポーター養成講座」の開催を予定している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体的拘束は行わないように、鍵の施錠は可能な範囲(入居者の状況をみながら)外している。勉強会も実施している。</p>	<p>「利用者に普通の生活をしてもらう、やりたいことを自由にやってもらう」の方針を全職員が理解・共有し、拘束をしない支援がなされている。また、職員は利用者のヒヤリハットをテーマにして話し合い、身体拘束をしないケアについて正しく理解し実践に繋げている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>毎月1回の職員会議の際、また定期的に勉強する機会を作り、繰り返すことで虐待防止の認識を新たにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在成年後見人制度について学ぶ機会を作っていないが、今後は外部研修への参加、また内部研修を実施するなどして知識の習得を推進したい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、ご家族やご本人の方の不安や疑問を解消するよう、安心に繋がる説明に努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>契約時にご意見、要望、苦情などの窓口の設定状況など説明を行っている。また、面会時や電話、ケアプランの更新の際にも要望等について何うようにしている。</p>	<p>家族の訪問時に意見や要望を気軽に言ってもらえるよう雰囲気づくりに配慮している。また、年に1回事業所本部から満足度の実態を把握するアンケートが利用者家族に直接発信され、事業所はその結果をスタッフ会議で話し合い運営に反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議の際や日常の場面場面で、会社への要望、業務への要望を聞いている。	管理者は日頃から職員が何でも話せる雰囲気づくりに努めている。スタッフ会議で職員の意見や提案・要望を聞き、事業所内で改善出来ること、本部に要望することなどを協議し、その中で事業所内の改善については職員で話し合い、直ちに実行されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人面談、日常生活から職員個々の意見を聞く機会を設けて、ホームからの意見として上司へ相談をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	計画書の作成は行っていないが、内部研修においては認知症、虐待、救命講習、介護保険制度など研修を行えている。外部研修は研修案内を配布し希望スタッフに参加してもらい、後日報告を会議で行い、業務改善に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所との交流や意見交換ができるよう内部研修、勉強会等に無理のない範囲での参加を促している。研修など参加した際には報告も行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居の面談の際、またはサービス計画更新の際には、可能であれば本人へ意向を伺い、可能なかぎり、プランへ反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居の面談の際、またはサービス計画更新の際には、家族への状況説明、要望を聞き、寄り添った姿勢で可能な範囲反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の事前調査により、どのような経過で何を望んで」ホームへ入居になったか、また入居後はどのような対応を希望されるのかを伺うようにし、事前調査表を作成し、スタッフに情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活行為（掃除、洗濯、調理）にできるだけ関わってもらえるように身体状況の推移も考慮しながら行っている。個々の状態に合わせた無理のない声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会や外出など頻繁に来られる家族もいるが、面会などもほとんどない家族もおられる。ホーム、家族が共にという面ではまちまちであるがそれぞれの家族事情を考慮した関係性を維持している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	特別な事情を除き面会などの制限はなく可能な範囲で、そういった機会を提供できるよう家族にもお願いしている。家族の方との外出や面会などの際もあえて制限せず一任している。	家族や友人をはじめ多くの方に訪ねて頂けるように声かけをしたり、面会時間などを工夫している。利用者の中には家族と外出したり、リハビリに通ったりしている。また、退職された職員が毎月の「歌会」や、園芸のボランティアで来訪するなど馴染みの人との関係が途切れないよう、支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者それぞれの性格、特性を把握した上で、それぞれの関係を観察しながら場合によっては調整しその生活場面に適した環境設定を心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居の際には何か相談があればいつでも対応しますとお伝えし、変わらない関係性を継続させている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	訴えのできる方には可能なかぎり本人本意で、そうでない方には本人本意に思いを汲み取りながらの対応を心がけている。	職員は日常の会話の中から利用者一人ひとりの思いや希望を聴き、反映する努力をしている。家族と相談し利用者への声かけを工夫することで、生き活きと食事づくりにも関わってくれるようになった事例もある。また、意向の把握が困難な場合は、入居前の生活歴を参考にしながら本人の思いに沿った支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	馴染みの生活環境、懐かしい食べ物や昔からの趣味など楽しめるよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントによりある程度は把握できているが、常に変化をしていくものなので状態変化に気をつけ申し送り、会議にて共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>定期的なカンファレンスの実施は行っていないが、状態の悪化（入退院）などの際はご家族に改めて希望、意向をお伺いしプランを作成、同意を得ている。その他、更新の際は面会時、電話等で意向をお伺いし、介護スタッフの意見も聞きながら現状に即したプランを作成している。</p>	<p>介護計画はスタッフ担当者がたたき台を作り、それを基に計画作成担当者が作成した原案を管理者が目を通し、利用者、家族、介護スタッフの声を反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子、変化については個別記録、申し送りへ記載し、対応を統一できるよう情報を共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>訪問マッサージ、歯科、歌のボランティアなどの他のサービスを導入している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の季節行事などへの参加を行っている。また、近所の畑で収穫体験などを行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医療機関（内科）、歯科とその都度、相談しながら随時、体調変化に対応している。</p>	<p>協力医療機関に2週間に1回職員が同行し受診している。入居前からのかかりつけ医や専門医での受診については原則家族が同行し、情報を共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>2週1回の訪問看護の際に各ユニットの入居者の状態、対応について相談するようにしている。またな内科往診の際にも看護師が同席し情報の共有を図っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時にはサマリーにより情報提供を行い、状態をみて早期の退院等の受け入れも可能な範囲行っている。また、長期入院後の退院の際は本人本位の視点から病院関係者との打ち合わせも行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居契約時の説明、またその都度、状態の変化があった際に協力医と相談しながら今後の方針を家族に報告しながら一緒に考えるようにし、電話などでも細かく連絡を行っている。</p>	<p>事業所として医療行為が伴う看取り介護はしていない。この方針は入居契約時に説明し、利用者・家族の理解を得ている。また、利用者が一時入院し、退院後の受け入れについては協力医と相談し、家族や利用者話し合い、互いに、納得の上での再入居としている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>救急講習を全スタッフが受講し、対応に備えている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回避難訓練を実施している。うち1回は、近隣住民の方と夜間を想定した合同避難訓練を実施した。今後はもっと多くの方に参加していただけるよう働きかけ、地域ぐるみで協力体制を築いていきたい。</p>	<p>年2回消防訓練が実施されている。うち1回は近隣住民にも少数ではあるが参加頂き、夜間を想定した避難訓練を行っている。今後、運営推進会議などを通じて、町内の多くの住民参加による避難訓練の実施や地域との協力体制の構築に向け、連携強化に努めている姿勢が伺えた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	認知症の進行された方も比較的軽度の方も、その人その人の今の思いや、状況にあった個別の対応を心がけている。	職員は個別対応を心がけ、本人の「やりたいようにやってもらう、無理はしてもらわない」ことを大切に、一人ひとりの人格を尊重し、干渉しない看守り支援を行っている。言葉かけについても職員で話し合い・共有し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の訴えや希望を、可能な範囲で対応できるよう心がけているが、転倒などケガのリスクが高い方も多く、健康状態に注意しながら慎重に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	自分の思いを訴えることができる方については、希望を出された際にはできるだけ対応している。重度化により徐々に身体介護に要する部分が多くなり対応しにくくなっているが本人本位で無理なくしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	カットや髪染めなどご本人や家族と相談しながら意向を出来るだけ反映している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	その日に食べたいと希望があり対応できればそのようにしたり、調理、盛り付け、片付けも一緒に行っている。	食事作りは職員が交代で担当し、野菜の皮むきなど調理の下ごしらえや盛り付け、後片付けなど、利用者と一緒にしている。献立は事前に準備しているが、当日に希望を聴き対応することもあり、肉の苦手な利用者には魚を準備するなど臨機応変に対応している。また、誕生会や行事・季節毎のメニュー作りを工夫したり、回転寿司などの外食にも出かけるなど食事が楽しみなものになるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	主食、副食の形態、量など状況をみながら提供している、また状態によっては水分摂取表に記録し確実な水分摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時、昼食、夕食後に実施、歯科往診も2週間に1度あり都度相談し、状況に応じたケアを依頼している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	随時、また定時の排泄誘導を前後の排泄状態を考慮しながら行っている。また昼夜のパットなども状況によって変更している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行なっている。表情など日々の体調にも配慮しながら排泄の失敗を少なくし、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	乳製品や水分、繊維食物の摂取、体操、また随時内科医に相談するなど、できるだけ便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴のタイミングや時間など配慮はしているが、最低2日に1回の入浴を確保していくには、ある程度時間は限定されている。順番など希望を聞いている。	基本的には14時～18時の時間帯で、2日に1回の入浴であるが、利用者一人ひとりの希望に配慮し、順番を変えたり、同性による入浴介助も行うなど、入浴を楽しめるように支援がされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>皮膚の状態や室温、排泄など睡眠状況に配慮し臥床時間を設けたりと工夫をしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬状況がわかるようファイルに閉じスタッフがいつでも確認できるようにしている。また、服薬の変更、その後の状態の変化の観察を申し送りにて伝え情報を共有している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>気分転換の外気浴、外出やイベント、好きな食事など、可能な範囲対応している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>職員の体制的にその日に対応できないことも多いが、買物、散歩など簡単な外出は状況により対応できている。また会議の際に検討し機会を設けて対応している。家族へも希望があれば面会の際にお伝えしている。</p>	<p>外出や買い物を希望される利用者には個別に対応している。花見や観劇などへもホームの外出行事として出かけている。家族にも協力頂き、いきつけの美容院や自宅、外食など出かけられるように支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>基本的には所持されていないが、金銭に対しての思いが強い方や家族の希望あれば小銭程度はいつでも引き出し可能な預かりとしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>家族への連絡を希望される方はハガキを使い、連絡(電話)が入った際にはご本人と変わってお話をしてもらっている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>壁画や季節の飾りなど季節ごとに変化させている。またその他の環境面等もシンプルにわかりやすくしている。</p>	<p>リビングは広くゆったりとしている。食事でも大きなテーブルで利用者が向かい合って冗談を言ったり、職員と談義をしながら摂るなど、笑いのある温かな食卓づくりの工夫がされている。壁画や利用者が作成する季節ごとの飾りなど、季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるように配慮している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>自分の席やソファなど各自一人で過ごせる場所は確保できている。食事の席なども人間関係を配慮しストレスの少ない配置にしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>基本的には持ち込みの制限はなく、馴染みのものを置くなど自由に使用していただいている。</p>	<p>利用者が居室に馴染めるように家族と相談しながら、タンスや椅子の家具類、写真や手鏡など使い慣れたものや好みのものが自由に持ち込まれている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>福祉用具など必要に応じ調達している。生活し易い環境を整えている。今後も必要に応じ導入していく。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ひなたぼっこ高揚①

作成日 平成26年2月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の積極的な活用ができていない。	家族の参加者を増やしホームの現状を理解して頂き、運営に理解、協力をして頂ける。	会議への参加を促し、各家族1回は参加をして頂けるよう案内をしてゆく。	1年
2	3	地域とのつながりを強める。	福祉施設としての役割を作り、ホームへ足を運んでもらえる機会を作る。	近隣の高校などへ実習や職場体験としての機会を提供する。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ひなたぼっこ高陽②

作成日 平成26年2月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の積極的な活用ができていない。	家族の参加者を増やしホームの現状を理解して頂き、運営に理解、協力をしていただく。	会議への参加を促し、各家族1回は参加をして頂けるよう案内をしていく。	1年
2	3	地域とのつながりを強める。	福祉施設としての役割を作り、ホームへ足を運んでもらえる機会を作る。	近隣の高校などへ実習や職場体験としての機会を提供する。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。